東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2007 年 1 月 12 日

イスラームの普遍性

　ムスリムの皆様。アッラーは教えを下される際、人の必要とするもの、条件、能力、社会環境、文化環境などを考慮されておられます。アッラーが下されたそれぞれの教えの間には、言語、地理、文化、歴史などの面における相違点が存在するのは一つの事実です。しかし、信仰の基本やイバーダの認識、また公正、正義、愛、援助といった基本的、普遍的な価値は、アッラーによって下された教えの共通点です。したがって、啓示を源とするすべての教えは、その真髄において同じであるのです。イスラームは、聖アーデム以来続けられてきた啓示の、最後の輪なのです。だからイスラームは普遍的なものであります。世界のあらゆる地域に暮らす人々、そして最後の審判に至るまでのあらゆる時間を包括するものである必要があります。そして事実、その通りなのです。イスラームは単に一つの民族に与えられ、彼らにのみ呼びかけ、彼らにのみ道を示す教えではありません。言い換えるなら、イスラームは、アラブ人、トルコ人、パキスタン人、マレーシア人、あるいは他の何らかの民族に対して下された、彼らだけの教えではないのです。アラブ人にも、トルコ人にも、アメリカ人にも、日本人にも、中国人にも、要するに全ての集団に等しく呼びかけ、そしてすべての人々に役立ち、彼らにこの世とあの世における幸福の道を示す教えなのです。

　親愛なる兄弟姉妹の皆様。ムーサーがユダヤの人々への預言者であるように、ムハンマド以前の預言者たちや教えは、一定の時代や集団を対象としたものでした。しかしイスラームは、すべての時代と場所を対象とするものです。イスラームの根本的源であるクルアーンは、最後の審判までのあらゆる時代を包括し、あらゆる人々、さらにはジンたちをも対象とするという特質を持つものです。クルアーンを読んでみると、それが一定の集団ではなくすべての人々へのメッセージであることは明らかです。クルアーンでは次のように述べられています。「われは、全人類への吉報の伝達者また警告者として、あなたを遣わした。だが人びとの多くは、それが分らない。」（サバア章第２８節）例えば、「信仰する者よ」「人々よ」といった全体を対象とする表現がしばしば用いられています。預言者ムハンマドは、「すべての預言者は、それぞれ自分の民に対してのみ遣わされたが、私はすべての人々の為に遣わされた。」とおっしゃられています。

　親愛なる兄弟姉妹の皆様。イスラームは人々の社会的立場や性別によって区別することはありません。イスラームの定めは人の個人的、社会的生活のすべての部分に光をもたらすものです。礼拝、断食といった個人的なイバーダにおいてすら、集団への効果が考慮されています。この世の生活の恵みやよいものと対立するものでもありません。この世とあの世との間でバランスを保ち、行き過ぎを避け、二つの生の両方の為に努めることを求めているのです。

　人類が、特に中世において味わった苦しみ、そして経験によって一定の状態に到達したというのは周知の事実です。今日、普遍的なものとして認められるこれらの徳は、イスラームの定めにおいて既に存在したものです。イスラームは、人権、正義、信頼、公正、気前のよさ、客への親切な振舞い、平等、新しいものを受け入れる態度、老人や子供、女性の権利の保護、勤労の尊重、寛容、能力に応じた仕事の割り当てなど、普遍的原則の全てを持っており、そしてそれを勧めてきたのです。

　このような完成された教えを信仰していることに対し、どれほど感謝してもしすぎではありません。アッラーに感謝を捧げます。